

半導体の役割 児童ら学ぶ

大津町の室小 崇城大生講師

TSMC
インパクト



半導体について学ぶ県の
出前授業が2日、大津町の
室小であり、4年生108
人が座学やプログラミング
体験を通して役割や扱い方
を学んだ。

台湾積体回路製造（TSMC）の菊陽町進出を受け、
次世代の半導体産業を担う
人材を育成しようとして、県が
試験的に開催。県半導体人
材育成会議メンバーの崇城
大が講師として協力した。
崇城大の学生が、半導体
を使った製品や関連企業が

県内に進出する背景などを
説明。児童らは実際に、簡
単なプログラミング言語で
音を出力できるコンピュー
ター「IchigoJam
（イチゴジャム）」を使い、
スピーカーから音を出した
り曲を奏でたりして楽しん
だ。

崇城大の中山泰准教授
（工学）は「国内産業を盛
り上げるため、まずは興味
を持ってもらいたい」。参
加した黒川愛絆さん（10）は
「家電に半導体が使われて
いると初めて知った。この
装置で音が出るのがすごい
なと思った」と話した。

（深川杏樹）

プログラミングを体験し、半導体の役割について
学ぶ室小の児童ら＝大津町